

令和8年三浦半島宮陵会/新年会開催

～会員など68人が参加～

令和8年神奈川大学三浦半島宮陵会の新年会が1月25日(日)11時から、京急横須賀中央駅から徒歩5分の「横須賀市立勤労福祉会館(ヴェルクよこすか)」に会員など68人が参加して開催された。

進行役の浜付朋武幹事(H8国際経営卒)の司会で始まった講演会には会員など53人が参加し、田原会長(S49年貿易卒)の主催者挨拶に続き、神奈川大学国際日本学部教授の、関口博巨氏が「古文書で読み解く篤重の時代～村の犯人さがし～」と題し1時間20分にわたり講演された。(講演要旨は2～3頁目に掲載)

休憩を挟んで開催された懇親会は、ケータリング方式で行い、これには神奈川大学カレッジサウンズオーケストラの学生11人を含む64人が参加(内6人が初参加)した。

堀越昌樹会計監査(S62年法律卒)の司会で、中川六郎幹事(S44年経済卒)の主催者挨拶、初参加者や他地域宮陵会メンバー、懇親会で演奏するカレッジサウンズオーケストラのメンバーの紹介があり、今回93歳で参加した最年長会員の川瀬元夫氏(S31年経済卒)の乾杯の音頭で懇親会は始まった。

懇親会では、本会の会員でもある石渡卓神奈川大学理事長(S51年貿易卒)の挨拶、初参加者6人の自己紹介や



↑ 全参加者による記念撮影「ヴェルクよこすか」2026.1.25

ご挨拶

会長 田原 清彦



神奈川大学三浦半島宮陵会新年会にご参列いただきまして、誠にありがとうございます。S49年(1974年)3月貿易学科卒、三浦半島宮陵会会長の田原清彦です。

三浦半島宮陵会は神奈川大学卒業生の同窓組織・宮陵会の地域組織の一つであり、発足は2006年ですので、今年2026年は20周年という節目の年になります。

今年は令和八年、未広がりの中の年です。和暦を覚えるのは大変ですが、私は西暦2026年の最後の二けた、つまり2と6を足して8、令和8年と覚えるようにしています。2029年までこの方法で対応していくことにしています。

さて、干支で申しますと今年は午年、動物の馬という漢字は覚えやすいために、あとで用意された漢字と言われています。もともとの午、という字についてですが、餅をつくときに使う杵という漢字が、中国での象形文字の由来と聞いています。また今から2～300年前の江戸時代は時刻を干支の子、丑、寅、であらわしていたようです。草木も眠る丑三つ時とは、つまり午前2時ごろということになり。午の刻はちょうどお昼の12時になります。ですからお昼よりは午前、お昼よりは午後という漢字の由来になっているわけです。

本日の新年会では、神奈川大学国際日本学部の関口教授から江戸時代の篤重に関するお話をおききできると聞いており、大変興味深く楽しみながら講演になるものと思っています。その後の懇親会では昭和、平成、令和の母校での思い出話などを含め皆様楽しい時間を過ごしていただくことができれば大変幸いです。この一年が皆様にとって素晴らしいものとなりますようご健勝とご多幸をご祈念申し上げ私のあいさつとさせていただきます。

藤沢宮陵会の栗田光郎氏(S39年機械工卒)、神奈川・鶴見区宮陵会の春原正三郎氏(S47年法律卒)・久米信行氏

(S49年経済卒)、磯子・金沢区宮陵会の廣澤一雄氏
(S55年法律卒)の挨拶があった。

中盤では催し物として、20人編成の神奈川大学カレッジサウンドオーケストラの演奏を堪能し、2時間半にわたった懇親会は、箕輪義夫幹事(S63年貿易卒)の中締めの挨拶後、参加者全員で校歌・応援歌の合唱をして閉宴となった。(塩塚)



↑ 司会の浜付幹事

↑ 挨拶をする田原会長

講演会開催

「古文書で読み解く篤重の時代
～村の犯人さがし～」

神奈川大学国際日本学部
歴史民俗学科教授

関口 博 巨 氏



【講演要旨】

私は、日本常民文化研究所の共同研究などを通して、日本各地の古文書の調査をしています。今日は、調査で発見した古文書によって、篤屋重三郎の時代(18世紀の日本)の一端に迫ってみたいと思います。皆さんも私と一緒に江戸時代の古文書(近世文書)を読んでみましょう。

統一政権が成立した江戸時代には、さまざまな国家制度が整えられ、8代将軍徳川吉宗の時代には、刑法典である公事方御定書が制定され、判例にもとづく合理的な司法判断が進められたと言われていました。しかし、公事方御定書が制定されても、江戸時代の村は、掟や定(さだめ)などと呼ばれる村法を独自に取り決めて、地域で発生した犯罪に対処していたようです。

たとえば、伊豆の和田村(静岡県伊東市)には、享和元年(1801)2月に仏光寺から同村名主の新左衛門に出された「一札」という古文書が残されています(玖須美区有文書)。これによると、村人の長兵衛は新左衛門の所有林で薪(たきぎ)を盗伐しました。そのため長兵衛には、村の「掟の通り」、罰金2貫文が課されました。しかし、檀那寺の仏光寺は、長兵衛が孤児で文蔵の厄介になる身の上であることを説明し、それに免じて罰金を寺と文蔵の側で貰い受けたいと申し出、新左衛門もこれを受け入れていました。つまり、公事方御定書があっても、必ずしも公訴していたわけではなく、村の掟に従って事件を解決していたことがわかります。しかも、掟の運用が弾力的であったことも窺えます。

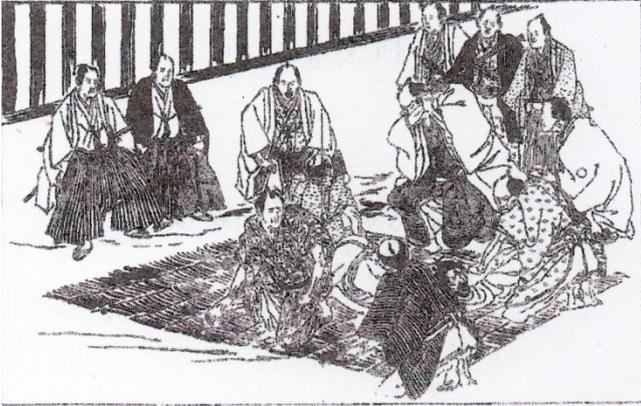
また、甲斐国の有野村では、宝暦8年(1758)2月に「村中物騒に付き連判の事」という村法を取り決めています(矢崎家文書)。篤重の少年期にあたる宝暦7～8年頃の話です。有野村では「小盗」が頻発し、村中が不穏な空気に包まれていました。古文書は「村中物騒」と表現しています。そうした状況を解決すべく、有野村では村寄合(会合)を開き、「入札」を行うことにしています。ここで入札と言っているのは、犯人を決める投票のことです。

入札を実施するにあたって、有野村では次のような規定を定めています。個人的な恨みで投票する可能性もあるので、入札3枚以内は「盗み札」(盗人を決める入札)としてカウントしない。しかし、「癖者(曲者)」ゆえに投票されるのだから、入札1枚につき1年間、村八分にする。入札4枚以上の者は、代官所に申請して宗門人別改帳(戸籍)から外す(つまり村を追放する)。最多票の者は、盗人として公儀へ訴訟してお仕置きしてもらう。有野村の「村中物騒に付き連判の事」という古文書は、こういうことを取り決めた村法・掟だったのです。

投票で犯人を決めるなど、今の日本では考えられません。投票では真犯人を特定できないからです。それでは、近世の村社会では、なぜ入札を行ったのでしょうか。近世社会では、幕府や村の秩序に従わない者を「徒者(いたずらもの)」と呼んで、排除しようとしています。入札には、真犯人の特定以上に、徒者を排除する目的があったのだと思います。村から徒者を追放して、「物騒」な状況から秩序を回復しようとしたのではないのでしょうか。だとす

れば、近世の村人たちには、徒者と思われたいような生き方が求められたはずで。

現代社会には SNS というインターネット上の情報共有サービスがあり、不特定多数の人びとが特定の個人を誹謗中傷することが問題になっています。近世の入札の研究は、こうした問題を考えるヒントになるのではないのでしょうか。ご清聴ありがとうございました。



↑ 当時の取り調べの様子

【講師略歴】

1960年埼玉県生まれ。専攻は日本近代史。國學院大学文学部史学科卒業、神奈川大学大学院経済学研究科修士課程修了。歴史民俗資料学博士。神奈川大学日本常民文化研究所長。

懇親会開催

懇親会は、演奏してくれた神奈川大学カレッチサウンズオーケストラの学生や3人の女性を含む64人が参加。内6人が初参加となるなど、盛会の懇親会となった。以下、その模様を写真でご紹介します。



↑ 挨拶する石渡理事長

↑ 乾杯の音頭の川瀬氏



↑ 初参加の皆様方



↑ 藤沢宮陵会の栗田氏

↑ 神奈川・鶴見区宮陵会の春原氏

↑ 磯子・金沢区宮陵会の廣澤氏



↑ 進行役の堀越会計監査

↑ 主催者挨拶の中川幹事



懇談する参加者の皆様 ↑ ↓



懇談する参加者の皆様 ↑ ↓

懇談する参加者の皆様 ↑

『神奈川県カレッジサウンズオーケストラ』の皆様 ↓



懇談する参加者の皆様 ↑ ↓

『神奈川県カレッジサウンズオーケストラ』の演奏 ↑

『神奈川県カレッジサウンズオーケストラ』の演奏 ↓



↑ 懇親会を締めくくる校歌と応援歌の大合唱

12時50分から始まった懇親会は、校歌と応援歌の大合唱を最後に終演。ブレドール葉山のパンを頂き閉会に。

三浦半島宮陵会同好会通信

～活動状況・予定等を紹介します～

● ゴルフ会世話人:古敷谷 均 (S44年機械卒)

メールアドレス: hi562toshi@yahoo.co.jp



連絡先:090-7838-3682

2025年10月15日(水)に葉山国際カンツリー倶楽部エメラルドコースで2組7名が参加して、三浦半島宮陵会オープンコンペが開催されました。

松井一郎さんが優勝、古敷谷が2位、田原清彦会長が3位となりました。

次回は、2026年5月27日(水)に葉山国際カンツリー倶楽部のエメラルドコースで行う予定です。友人、知人をお誘い合せの上、気軽にご参加ください。



↑ 参加された皆様

第51回三浦半島宮陵会オープンコンペで優勝!

松井 一郎 (S53 経済卒)

最終締め切りギリギリに参加申し込みをさせて頂き、おまけに運良く、そしてパートナーの方々にも恵まれ優勝する事が出来ました。写真から古敷谷/松井/田原
また、立派な優勝トロフィー(持ち回り)を頂き、有難うございました。

エメラルドINスタートで、力まず無心のプレーが功を奏したのか、ハーフは良いスコアで回れました。OUTはいつものダボトリの連続でしたが、久しぶりに100を切ることが出来ました。

神大では、柔道部に所属していました。OB会でも年5・1・2回ゴルフコンペを開催しております。柔道の背負い投げ、一本背負いの要領でいつもプレーをしていますが、中々ゴルフは上手くスコアをまとめる事が出来ません。本当に難しいスポーツです。

今回は、世話役の方々、一緒にプレーをして頂いた古敷谷さん、佐久間さん、土屋さんのお陰です。有難うございました。次回のコンペを楽しみにしています。



●歩こう会世話人:内藤正久(S51年機械卒)

メールアドレス: naitoumasahisa@hotmail.com



連絡先:090-6479-3297

歩こう会は、会員は勿論のこと、ご家族やお友達の方々にも参加していただける楽しい会です。

当会は、年2回(春・秋)

歴史や話題性のあるテーマを決めて歩いたり、三浦半島の景勝地や自然を楽しんだり、季節の味覚を味わったりしています。同時に会員の交流にも重点を置いて企画しています。

春の歩こう会は、'26年2月15日(日)に「田浦梅の里」の散策を計画しました。秋にも計画しますので、皆様の参加をお待ちしています。

●テニス会世話人:塩塚定雄(S48年貿易卒)

メールアドレス: s.shiozuka@aria.ocn.ne.jp



連絡先:090-5581-1043

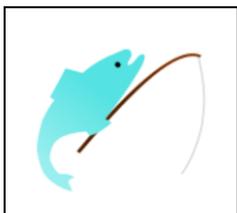
テニス会定例会は、現在原則として毎週木曜日午後3時から5時まで大津グランド・テニスコート(京急新大津下車)で行なっています。

また8月上旬には、神大箱根保養所に1泊して町営テニスコートで合宿を予定しています。

ひと汗かいた後のアフター・テニスも良いのではないですか。初心者歓迎です。皆様の参加をお待ちしています。

●つり会世話人:塩塚定雄(昭和48年貿易卒)

メールアドレス: s.shiozuka@aria.ocn.ne.jp



連絡先:090-5581-1043

現在休止中です。

企画が出来ましたら、ご案内します。釣り付きの皆様、お声掛けください。

歩こう会「武山ハイキングとみかん狩り」報告

2025年11月8日(土)に「武山ハイキングとみかん狩り」を行いました。参加者は5名。天候は、晴れ時々曇りで暖かく、歩くと汗ばむ陽気でした。

参加者は、10時30分に京急YRP野比駅改札口に集合して10時38分発の横須賀市民病院行き京急バスに乗り、通信研究所入口バス停で降りました。ここから武山に登ることになりますが、参加者と相談して当初予定していたならかな山道ではなく、短時間で登ることができる裏コースを歩くことにしました。武山頂上には当初予定していた時間の半分、約20分で登ることができました。

武山の頂上では、持ってきた昼食を懇談しながらゆっくり食べ、展望台からは、猛禽類のハイタカ(鷹)が渡っていく姿を観たりして過ごしました。計画通り12時30分に津久井浜観光農園に向かって下山を始め、13時過ぎに津久井浜観光農園の受付に到着しました。

みかん農園は、入園料の1人950円を支払うと、当日割り当てられる仕組みです。我々は、35番農園でみかん狩りを楽しむことになりました。この農園は、急斜面の上にあるため、全員息を切らしながらたどり着きました。農園では、オレンジ色に色づいた甘そうなみかんを探し、採って食べましたが、5個食べるのがやっとでした。お土産用のみかんは、ナイロン袋に採ったみかんを入れて農園入口で重さを量り精算しました。

津久井浜観光農園前からは、無料の送迎マイクロバスが京急津久井浜駅まで出ており、乗車8分程で駅に到着して14時過ぎに改札前で解散しました。楽しい1日をありがとうございました。(世話人:内藤) ↓武山頂上にて



↓ みかん農園にて



箱根駅伝応援記

神大職員の奮闘に感激 内藤正久(S51 機械卒)

第102回箱根駅伝が2026年1月2日(金)・3日(土)に行われ、当会の指定場所、JR保土ヶ谷駅そばの「円福寺前(保土ヶ谷駅から横浜寄り 100m)」で応援しました。



当日は、無風晴天に恵まれ、日差しを浴びて暖かで絶好の応援日和でした。

1月3日の神大職員の応援での奮闘ぶりを是非皆様にご紹介したいと思い、筆を取りました。

ランナーの保土ヶ谷駅前の通過予定時刻は、11時40分ですが、私が10時に現地に到着した時には、神大職員4名が応援の準備を始めていました。ここ2年間、10時30分過ぎにならないと幟が届かなかったので、久々にいつもの場所が確保できました。

応援の準備が整った後、職員の皆さんが、ジャバラを開いて歩行者に「明けましておめでとうございます」「おはようございます」「地元の神奈川大学です」「応援よろしくお願ひします」などと挨拶や声掛けを始め、また、通行する車に対してもジャバラを開いて差し上げ、ピョコッと一礼し始め

ました。

私は20数年来応援に来ていますが、神大の職員がこのような積極的な行動をしたのを初めて見ました。大いに感激して嬉しくなりました。私も職員と同じように声掛けを始めましたが、ほとんどの通行人は無反応でした。しかし、2割ぐらいの方から挨拶を返してもらい、「応援しているよ!」とってもらえました。こうした地道な行動が、神大応援者を増やし、強いては神大を発展させていくことに繋がっていくものと確信しています。少子化でこれからの大学経営が厳しくなることは誰もが認識していますが、実際行動に移すのは勇気がいります。今回4名の職員の積極的な姿勢を見て、全職員が常にこのような考え方をもって行動すれば、必ず難局を乗り越えられると思います。結局声掛けと挨拶は、1時間以上続きました。

その後、職員が神大9区花井ランナーの「花井」コールの練習と通過する他大学への応援の音頭を取ってくれました。お陰でいつも増して応援に力が入り、盛り上がりました。

今年の成績は、シード校日大まで73秒差の13位と躍進しました。来年はシード奪還の可能性が大きいと考え、今後も精一杯応援したいと思います。

神大を皆で一丸となって応援する、TVでは味わえない独特の雰囲気、来年はさらに沢山の方々と体感したいと思います。応援、なかなか良いものですよ!

- 2026年の記録：①青山学院大(10:37:34) ②国学院大 ③順天堂大 ④早稲田大 ⑤中央大 ⑥駒沢大 ⑦城西大 ⑧創価大 ⑨帝京大 ⑩日本大(10:53:56) ここまでがシード権 ⑪中央学院大 ⑫東海大 ⑬神奈川大(10:55:09) シード権迄 1分13秒差 ⑭東洋大 ⑮日体大 ⑯東京国際大 以下略

三浦半島宮陵会・新年会に参加して

新会員 片岡 祐二 (S57 貿易卒)



田原会長はじめ、運営等にかかわる皆様へ感謝申し上げます。今回、三浦半島宮陵会新年会に、初めて参加させていただきました。

講演会では、国際日本学部関口教授による「古文書で読み解く篤重の時代」の講演を聞かさせていただきました。教授のご苦勞が良く、わかりました。後半は、最年長会員の川瀬先輩の元気な乾杯で懇親会が始まり、現役学生で構成されるカレッチサウンスオーケストラの演奏が花を添えてくれました。

多くの先輩や後輩の会員の皆様が地域のため、地域経済のために活躍されているお話を聞き、まだまだ自分に足りないことが多いことに気づかされました。人と人の繋がりを大切にしていこうと、改めて思う1日となりました。ありがとうございました。

〈本会のホームページについて〉

アドレス：kyuryou-soshiki.kanagawa-u.ac.jp/miurahanto/



神奈川大学三浦半島宮陵会のHPがリニューアルされました。「神奈川大学三浦半島宮陵会」で検索し、ご自分のPCや携帯にダウンロードし

て、いつでも検索できるようにしてください。

メニューとしては、ホーム、宮陵会とは、ご報告(催しなど)、会則・役員、だより、記念誌、入会・お問い合わせとなっています。当会報「神奈川大学三浦半島宮陵会だより」は創刊号から前回の37号までが、閲覧することができますので、ご覧ください。催しなどの予定や結果についても確認してくださいね。

なお、SNS系の鈴木明子幹事さんが、TwitterやLINEを使って、会員や同級生の方々とのやり取り等、情報共有に役立てられるようにして負っています。Twitterはアカウントができれば「神大OB会@三浦半島」をフォローしてください。アカウントは「@kyuryo_miura」です。ご不明の点はメールで natukodati@gmail.com 迄。

〈事務局からのご案内〉

☆設立20周年事業 / 2026年度「集い」

開催日・予定場所など☆

2026年度「集い(総会・講演会・懇親会)」は、当会設立20周年を記念して6月20日(土)にみなとみらいキャンパスでの開催を目指して大学と交渉しています(3

月末決定予定)。講演会では、大活躍の神大水泳部ヘッドコーチ横山貴氏をお迎えします。

また、懇親会は眺望が抜群の21階学生食堂での開催を大学にお願いしています。出席者には20周年記念誌と記念品を贈呈いたします。楽しいアトラクションも企画して皆様のご参加をお待ちしております。

是非スケジュール表にお加えください。ご案内の往復ハガキやメールは、開催場所を明記して5月下旬までにお届けいたします。たくさんの参加をお待ちしております。

～ 編集後記 ～

本号では先日開催された、新年会の模様などを紹介させていただきました。本誌はお陰様で本号で38号となりました。今後も誌面の充実にも努めてまいりますので、ご要望やご感想等をお寄せください。

私は現在、地域の自治会長を務めています。先日は、横須賀市市政記念日を祝うための記念式典に参加しました。

そこでは、1907年2月15日に市制を施行してからの119年のあゆみを振り返る、短編映画を見ました。

軍港として発展した横須賀ですが、現在は開発が進み、都心に近い住宅地や観光地として発展が続いています。私の自治会長としてのモットーは「誰一人取り残さない」です。地域の高齢化が進んでいますが、子ども会や児童民生委員の方たちと協力して、地域行事を盛り上げています。

我が三浦半島宮陵会も、鎌倉・逗子・葉山・横須賀・三浦の4市1町で発足して今年が20周年となります。継続することは、何事においても困難を伴いますが、皆で協力して、困難を乗り越えていきたいと思えます。(塩塚定雄)



横須賀・三笠公園(記念艦三笠)